

# Frente

フレンテ

フレンテとはスペイン語で「前向き」という意味です。

vol.32  
2008.1

フォーラム  
報告

## 男女共同参画フォーラム ～みえの男女2007～からの メッセージ



背景を読み解く

いまなぜ

ワーク・ライフ・バランスなのか？

篠塚英子さんの基調講演から

まちは自分たちの手でつくろう

男女共同参画が  
地域を変える！

シンポジウム  
様々な分野からのメッセージ

2007  
男女がいきいきと  
働いている企業

受賞企業の  
紹介

元気な企業からのメッセージ

### Report

デートDVは身近に起こっている

女性に対する暴力防止セミナー  
～知っていますか？ デートDV～

どうなりましたか？  
男女共同参画の視点で進める  
まちづくり



# 男女共同参画の視点で進めるまちづくり

ワークショップより

行政  
ワークショップ「この取組でわが市町  
を変えよう!～市町における男女共同  
参画の取組～」では、合併後の行政の取  
組について考えました。行政のトップ  
を代表して名張市長に講演をいただ  
いた後、シンポジウムを行いました。  
コーディネーターに三重大学准教授  
の石阪督規さんを迎え、鈴鹿市、亀山市、  
志摩市の男女共同参画の担当者にお  
話を伺いました。シンポジウムより抜  
粋してご紹介します。



行政  
ワークショップ「どうなっていま  
すか? あなたの市町の男女共同  
参画～ネットワークづくりに向け  
て～第2弾」(P.2-ロメモ参照)では、  
県内の活動団体による先進的取組  
の紹介の後、意見交換を行いました。  
ネットワークづくりの必要性  
を再確認し、今後に向け、具体的  
に取組を進めていくこととなりました。

## 熱心に取り組む 市町からの メッセージに注目!

→「男女共同参  
画抜きにしては  
施策を進めるこ  
とはできない」  
と話される亀井  
利克名張市長。



鈴鹿市生活安全部男女共同参画課副参事  
長谷川玲子さん

協働・連携がキーワード。協働事業と  
して、情報紙・ふえすた・市民企画支  
援事業を市民と行政それぞれが一定の  
役割を持って行っている。また「三重  
県内男女共同参画センター3館連携映  
画祭」では、県内3つのセンターで会  
議を重ね、一つのものを作り上げてき  
た。相乗効果を生み、効果的だった。  
どんどん広まっていくことを望む。

亀山市企画政策部行政改革室室長  
上田寿男さん

各部門が男女共同参画推進の視点で仕  
事を行えば良いのだが、日々の仕事に  
追われ進まないから行政改革室で取  
組むこととなった。まちづくりの推進  
と行政改革には、男女共同参画社会の  
実現が不可欠。今後企業の協力を得ず  
して「仕事と家庭や地域活動の両立」は  
難しい。今、民間企業の職員が市の男  
女共同参画の担当職員として研修で来  
ている。企業との関係を強化し男女共同  
参画の重要性を訴えていくことが大切。

志摩市企画部企画政策課市民参画係主事  
岩崎 俊さん

男女共同参画の担当は一人で他分野の  
業務も持っている。そんな中で、市民  
の皆さんとの協働が大きな役割を果た  
すようになってきた。事業を通して市  
民の皆さんと一緒に勉強し、成長して  
きた。そのことが今後につながる力。  
また、事業の相談や情報交換など、フ  
レンテみえを存分に利用している。

コーディネーター  
三重大学人文学部准教授  
石阪督規さん

今や様々なところと連携し展開してい  
くことが必至。フットワーク軽く積極  
的に関わりを持っていかないと。各市  
町の男女共同参画の推進は、担当者の  
努力によって支えられているのである。

労働(企業)、メディア、農業、子育てなど、様々な分野のワークショップ報告については、フォーラム速報または、フレンテみえホーム  
ページをご覧ください。(「フレンテみえ」で検索すると、ホームページが見られます。)

メッセージをご紹介します。あなたにはどのようなメッセージが届きましたか?

### Message 3

#### 次代を担う若者たちも参画 あらゆる世代の参画を!



#### 学生サポーターの活躍

昨年度、速報作りで大活躍だった三  
重大学の学生の皆さん。今年は速報  
作りに加え、新たにオープニングの  
司会にも挑戦していただきました。2  
日目午後のホールイベントは、元気  
いっぱいトークで始まりました。

### Message 4

#### 男女共同参画社会へつなぐ思いは? 女性を詠んだ詩から原点を見つめ直す

#### オープニングイベント「詩の朗読」



のびやかに生きたかった、  
でも、そうできなかった時  
代に生きた女性たち。茨  
木のり子「もっと強く」、新  
川和江「わたしを束ねな  
いで」の詩に、現代のわた  
したちの姿を重ね合わせ  
ました。

# 基調講演

## 「なぜいまワーク・ライフ・バランス なのか？社会・経済の変化の中で」

今年度から、国は「ワーク・ライフ・バランスの実現」に取り組んでいます。なぜ、いま、ワーク・ライフ・バランスなのか、その背景と今後必要なことについてお話をいただきました。



しのつかえい  
篠塚英子さん  
お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授  
兼 文教教育学部教授  
社団法人日本経済研究センター研究員、お茶の水女子大学  
学家政学部助教授、同大学生生活科学部教授、日本銀行政  
策委員会審議員、社団法人日本経済研究センター客員研  
究員を経て現職。現在、沖繩振興審議会委員、中小企業  
審議会委員などを兼務。平成19年7月まで男女共同参画  
推進連携会議委員長を務める。  
専門：労働経済学、金融政策、ジェンダー論

・講演要旨・

### なぜワーク・ライフ・バランスが必要か～背景にある社会経済と労働力の関係～

経済の元気がよければ私たち労働者もそれにとまって派生します。つまり労働者数が多い方がその国の経済の規模は大きくなると言えます。例えば、たくさん子どもたちが生まれ結婚し家庭を持つと考えれば、その人たちのために住宅、交通、食料、医療、福祉、教育などのサービスがなされ、人口の規模に応じた経済政策がとられます。労働人口と社会経済との関わりは、非常に大きな政策の基盤になるということです。

では、バランスよく人々が結婚して子どもを産んで労働力人口になっているのかということを見ると労働者の働き方が問題になってきます。

例えば、結婚・出産となると、今のよう働き方では無理ということになり、出生率の低下を招くこととなります。出生率の低下は、高齢化、経済成長率の低下をもたらす、不安定になるということが言えます。この問題を解決しようとする、労働だけに

注目しても駄目なのです。労働者というのは労働するために生きているわけではないので、働くことと生活のバランス（ワーク・ライフ・バランス）が非常に大事であるということを中心に据えた様々な政策が必要になってきます。

日本は出生率の低下が非常に厳しい状況ですが、ここ数年は景気が良くなり経済成長率は高くなってきています。しかし韓国やフランスなど、世界の出生率と経済成長率の関係を見てみても、必ずしも出生率の低下＝経済成長率の低下とは言えません。

出生率の低下をくい止め、緩やかに出生率が上がり、その時に経済成長も上がっていく。そういった国では、相対的に国や企業が様々な支援をしているところが多いと言えます。多くの国において、国も出生率、高齢化、経済成長率のバランスを考えると、ワーク・ライフ・バランスを考える必要があると痛感しているのです。

### それぞれのワーク・ライフ・バランスへ期待する背景は異なる

このようにワーク・ライフ・バランスの必要性が出てきていますが、その背景には、政府、企業、労働者などそれぞれ違った思惑があります。

政府は国力の低下、労働力の低下を最も危惧します。労働者数が減り、いい労働を提供できなくなると、その分税収を得られなくなる。私たちは一定に働く一定の割合を国へ税金として納めます。つまり、その財政基盤が危うくなるということを意味します。そうなる、例えばいい教育や年金制度を実施したいと思っても出来なくなる。国民からはその国に対して不信感が出てくると益々国力は低下していきま。それをいかにして克服するかということが国にとっての命懸けのテーマになってくるかと思います。

一番の労働の需要を作るのは企業です。今はグローバル化とい

う経済現象の中で、企業はこれまでよりも一段と競争を強いられ、いい商品、サービスを作って売り、市場の中の競争で勝たなくてはなりません。しかし出生率が低下するということは良質の人材を確保することが難しくなるということです。企業にとってもそれでは困るので、企業にとって一番いい労働とは何かが考えられ、柔軟な働き方ができる労働市場が求められています。

家計あるいは私たち労働者にとってもいろいろな支援が必要になってきました。以前は、労働者の問題は男女ではなく、女性の家事育児支援が主とされてきました。しかし、最近はこちらがおかしいと言われていて。女性だけが家事育児をし、その上に労働もするとなればとてもできません。そこで新しい方向として、女性と男性と一緒に仕事と労働のバランスを取りながら生きていこうというワーク・ライフ・バランスという発想が出てきました。これがうまくいけば経済成長を改善させることができるはずで

### ワーク・ライフ・バランスには複眼的視点が必要

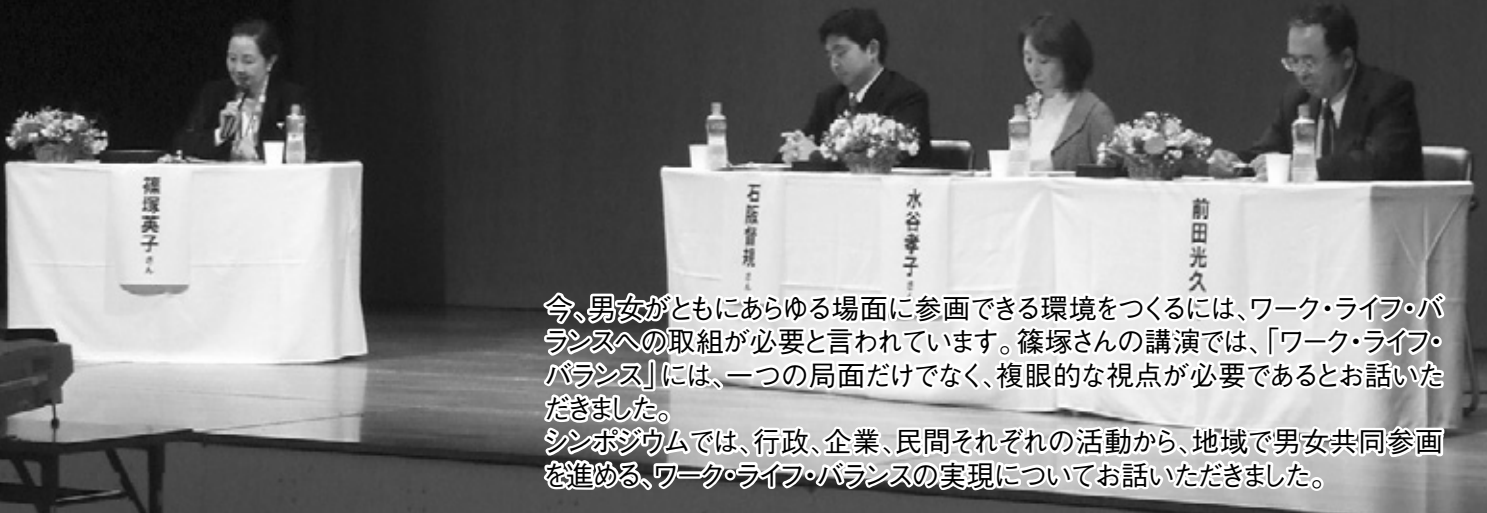
ワーク・ライフ・バランスの実現には、固定的役割分担意識を私たち自身が改めなければいけません。それが、一番の前提であります。意識の問題というのは強制されることではありません。自分たちの意識の問題は、自分たちで考えなければならぬのです。

- ◎家計内の中の夫と妻のワーク・ライフ・バランス
- ◎企業の中での労働者における男女の働き方、管理職の男女バランス
- ◎フリーター・ニート問題など労働市場における若者のバランス

- ◎労働市場における正規雇用と非正規雇用のバランス
- ◎生活時間におけるすべての男女の仕事、育児、介護、家事、余暇のバランス
- ◎首都圏と地方における所得格差のバランス

このようなことを踏まえた上でワーク・ライフ・バランスを考えることが必要です。ただ単純に、自分の企業の労働者を、妻と夫との関係を支援しようというだけではないということをお私たちは考えていなくてはなりません。

# シンポジウム「男女共同参画が地域を変える！」



今、男女がともにあらゆる場面に参画できる環境をつくるには、ワーク・ライフ・バランスへの取組が必要とされています。篠塚さんの講演では、「ワーク・ライフ・バランス」には、一つの局面だけでなく、複眼的な視点が必要であるとお話いただきました。シンポジウムでは、行政、企業、民間それぞれの活動から、地域で男女共同参画を進める、ワーク・ライフ・バランスの実現についてお話いただきました。

・シンポジウム要旨・

## 行政は男女共同参画の意識を持つべき

**石坂さん**：三重県の自治体はなかなか男女共同参画にお金や人を割けないというところがほとんどだと思います。その中で男女共同参画を推進するためには、行政だけでは進められません。まずは市民のリーダーを養成する。そのための啓発や講座を通じて市民の皆さんに男女共同参画を理解していただき、中心的な担い手になって頑張ってもらおうという発想が必要です。

次に、行政職員の啓発です。男女共同参画の担当部局も、2年3年経つとまた変わってしまう。むしろ全庁あげて職員がもっと男女共同参画に対する意識を持つ。育児休業にせよ、委員会の審議会の数にせよ庁内が一体となって進めていくような体制を作っていくべきです。

それから、企業への提言、アプローチが必要だということです。企業も収益を上げなければいけないので、男女共同参画や子育て支援に関わることを負担に思うところが多い。その企業にどうやって理解してもらおうか、企業の経営者にどうやってせまるか。これらが市町の大きな課題だと思います。



三重大学人文学部准教授  
いしざかとくのり  
石坂督規さん

## 親の働き方、生き方が子どもにも大きく影響する

**水谷さん**：体験ひろばに来る親子の姿を見ていて、子どもの成長の背景には、親の働き方、生き方が大きく影響しているということがわかってきました。

私たちのNPOでは、ワーク・ライフ・バランスについての調査を行いました。調査を行う理由は、子育て世代の生活の実態を知るのが1つ、もう1つは、調査に関わる人たちに人権意識や男女共同参画について学んでほしいというのがありました。アンケートの設問を考えたり、幼稚園に働きかけをしたりと、活動の中で一人一人が育って地域のキーパーソンになっていく。今では幼稚園のPTAの会長に立候補したりと主体的に地域に関わる人がたくさん育ってきていると思います。

アンケートで、パート労働者の生活の満足度が高いという結果がありました。けれどもやはり非正規労働と正規労働には待遇に大きな差がある。ここを何とかしなくてはいけないんじゃないか。働き方、生き方も含めたバランスを考えなくてはならないと思います。



NPO法人体験ひろば☆  
こどもスペース四日市理事長  
みずたいたかこ  
水谷孝子さん

## 中小企業だからこそできる

**前田さん**：我々中小企業経営者にとって男性か女性かということはいわゆる投資にあたるんです。ですから結婚退社してもらおうと困る。

それから職場の華でも困るんです。仲間であり戦力なんです。特に私どもの会社がやっている業種は経験とか技術の蓄積といったものがすごく求められる仕事をやっており、初めの3年5年というのはいわゆる投資にあたるんです。そこから実を取ろうという時に結婚や出産で辞めると言われるとすごく困ってしまう。子育てをしながらでもずっと勤められる環境を整えていくことは必須だと思っています。

育児休業制度も、取りやすい雰囲気があるかどうかが大変じゃないでしょうか。その会社でそれを容認してもらえる雰囲気があるかどうか、経営者がそれをバックアップしてくれる雰囲気があるかどうかが大変だと思います。そこは逆に中小企業だからできることだと思います。



旭電気株式会社代表取締役社長  
(本社・四日市市)  
みえ次世代育成応援ネットワーク  
運営委員長  
まえだみつひさ  
前田光久さん

## ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて

—生きることの意味や楽しみを見いだす工夫が必要—

**石阪さん:**今の学生はブランドや給料で就職先を選ぶ傾向が強く、県内出身者でも県外の有名企業に行ってしまう。そういう若者たちには、「三重県には三重県の良さがあるだろう」と言いたいです。特に日本人は働きすぎるので、自分にとって「幸せって何か、働くって何か」を考え、働くこと以外でも生きることの意味や楽しみを見つける工夫が必要なんじゃないかと思います。そういう意味では、若者たちに、三重県に住み、働き、生活することの意味を、ワーク・ライフ・バランスの視点から我々が訴え続けていく必要があると思っています。



働き方を変えて、自分の生き方を大切にすることが、地域の活性化につながっていくですね。

—その人がその人であるということが証明できる働き方を—

**水谷さん:**男女共同参画というのは、女性が男性並みに働くのではなく、女性も男性も人間らしく、その人がその人であるということが証明できる生活、働き方が望ましいと思います。少子化対策や経済支援も多いですが、子どもを温かい目で見守ったり、子どもを産みたくならないような社会でないと子どもは生まれてこないんじゃないかなと思います。

—自分の幸せのために働くこと—

**前田さん:**うちの社員にも言っていますが、なぜ働くのかということをお聞きしています。端的に言うと、私は自分の幸せのために働けと言っているんです。自分を大切に、力を発揮したいなら、自分が自分であるためには、どこが一番いいかということを選びなさいと私は言っています。

これからも若い人たちなぜ働くか、働いて誰のため?ということを経営者としての立場で問いかけていきたいと思っています。

ワーク・ライフ・バランスの実現は、男女共同参画の視点なくしてはありえないんですね。



## 今後、地域を活性化させるために必要なこと ～まちは自分たちの手で作る! ひとりひとりがキーパーソンになろう～

**篠塚さん:**デンマークのエルシノア市では、自分たちのまちは自分たちで作るといっているので、市議会も皆仕事が終わってから来られる夜に実施しています。自分たちの住む地域のことなので、議員に俸給はなく、出席のたびにわずかな謝金ができるだけです。市庁舎や病院などを作るときも、男性、女性、若者、高齢者、障がい者等、様々な立場の人が必ず一

定の割合で参加し、全て自分たちで提案し、取組を行っています。

このように、行政と民間、または非営利団体が、どのように協働してやってくかが重要なのです。政府や自治体も財政赤字ですから余分なところは削るしかない。しかしお金を出さなくてもアイデアを出すことは出来ます。行政を巻き込み、民間、企業も一緒に入って、

その中で自分たちの地域のワーク・ライフ・バランスはどうあるべきか考えていく必要があると思います。

自分が住んでいる市や町、それを何とかして廃らないようにするにはどうしたらいいか。それは自分たちでやるしかない。

ぜひ地元に戻ってひとりのキーパーソンになっていただきたいと思っています。



今年度は、国の取組であるワーク・ライフ・バランスを取り上げ、まちづくりを考えました。

さて、次回のフォーラムは「男女共同参画の視点で進めるまちづくり」をテーマとして3年目。来年度はこのテーマにおける集大成の年となります。今年度のフォーラムを受け、わたしたちの市町の男女共同参画は着実に歩んでいくのかを問いかけ、次年度に臨みたいと考えています。

フォーラムで積み重ねてきたわたしたち三重県の男女共同参画のネットワークを確かなものにするために、来年度も是非ご参加ください。

## 男女共同参画フォーラム ～みえの男女2008～

日程決定!

平成20年  
11月9日  
(日)

会場:フレンテみえ  
多目的ホールほか

\*平成20年11月8日(土)

「日本まんなか共和国男女共同参画フォーラム～2008 三重～」(仮称)との連日開催になります。  
(裏面もご覧ください。)

女性に対する暴力防止セミナー  
知っていますか？ デートDV

11月21日(水)



山口のり子さん  
2002年に「アウェア」を開設し、DV加害者プログラムを始める。2003年にはデートDV防止教育も始める。加害者プログラムや防止教育などについて執筆活動をする。ともに、全国各地で講演を行い、高校などでデートDV防止プログラムを実施している。

「フレンテみえ相談室」および「DV相談機関」などの情報はお電話(059-233-1131)またはフレンテみえホームページで。

11月12日～25日は「女性に対する暴力をなくす運動」の期間です。この期間に合わせてフレンテみえでは、「女性に対する暴力防止セミナー」知っていますか？デートDV」を開催しました。「デートDV」は、私たちの身近に起こっている深刻な問題であるにもかかわらず、まだまだ知られていません。このセミナーでは、「デートDV」について講演会とシンポジウムを開催するとともに三重県健康福祉部子ども家庭室からの「三重県DV防止及び被害者保護・支援基本計画」の解説やDV防止宣言を行いました。ここでは山口のり子さん(アウェア代表)の講演会の内容を抜粋して紹介します。

講演抜粋

デートDVとは・・・

「女性に対する暴力」は、ドメスティック・バイオレンス(DV)、セクシュアル・ハラスメント、性犯罪などを指します。男性中心の社会の中で職場や家庭で女性が差別・従属的な立場に置かれ、そのために女性に対する暴力がさまざまな形で起きています。

DVは“親密な関係の人への暴力”です。それは人権侵害であり犯罪です。そして、DVは大人だけでなく若い人たちの間でも起きています。若い人たちの間に起こるDVをデートDVと言います。

アウェアでは、被害者支援として加害者プログラムを行っています。加害者たちは「結婚する前の恋人同士の時から暴力をふるっていた。10代のころにこのプログラムを学んでいたら暴力をやめることができたかもしれない。」と言います。それでデートDV防止教育が大変重要だと思い、防止教育に取り組むようになりました。

デートDVの特徴

デートDVはセックスの関係になって始まることが多いです。セックスによって相手を自分のものにしたと思うからです。また、「彼氏」「彼女」役割のジェンダーの縛りも若い人ほど強く、暴力を愛情表現とロマンティックに捉えてしまう傾向があります。お互いに「愛しているから」「愛されているから」と二人の世界にどっぷりつかってデートDVが起きていてもなかなか気づけません。

デートDVは起きてからでは遅いのです。そのために親密な関係が始まる、中学・高校での防止教育が必要です。

デートDVをなくすために

防止教育プログラムは、ロールプレイを入れた具体的でわかりやすい内容です。誰かではなく自分自身の問題なのだと感じられるように工夫をしています。デートDVが起きていること、それが何であるか、なぜ起きるのかを伝えます。そして自分が加害者、被害者になってしまわないように気づき、“学び落とす”ことができるように話します。ジェンダー・バイアスにとらわれず「自分らしさ」を大切に、相手を尊重する関係をつくるのが大切です。

日本の取組は遅れています。先進的な情報を吸収し、社会全体で取り組むことが必要です。

デートDVが起こる要因

デートDVが起こる要因は、次の3つがあげられます。

- 1 **力と支配**  
DVの本質は相手を力で支配することです。支配するという目的のために手段として暴力を使います。
- 2 **暴力容認**  
「言っても聞かないなら暴力はしょうがない」など条件付きで暴力を容認している人が多くいます。特に男性が暴力を振るうことに非常に甘い人々の意識があります。
- 3 **ジェンダー・バイアス**  
「男らしさ」「女らしさ」とらわれる偏見(ジェンダー・バイアス)が男が上で女が下という主従関係を生み出し**力と支配**の構造を支えています。

間違った思いこみや考えをやめる(=“学び落とす”)ことがデートDVを防ぐ最初のステップです。

もし、あなたが相談を受けたら..?

- 1 まず被害者自身の力を信じ、支える気持ちを持ってください。
- 2 彼女の話を責めたり批評したりせず、まずじっくり聞いてあげてください。必ずしもアドバイスは必要ではありません。
- 3 「あなたは悪くない、暴力を振った方が100%悪い」と言ってあげてください。
- 4 フレンテみえ、警察、女性相談所、スクールカウンセラー、養護の先生などの相談先を教えあげてください。

困ったなと思ったら ひとりで悩まないで...  
まず、電話相談のご利用を ■■■ フレンテみえ相談室 059-233-1133

